

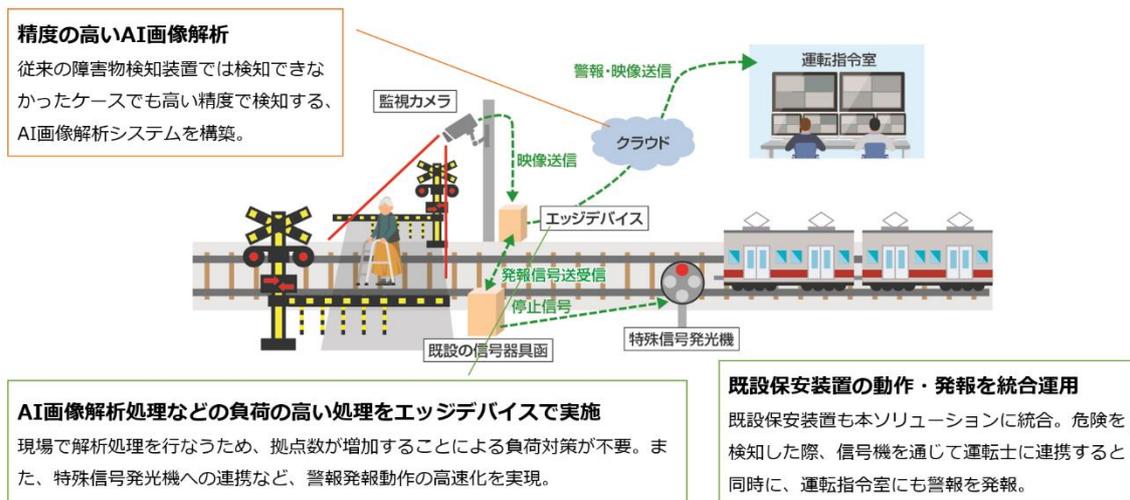
「人特化型踏切障害物検知システム」を導入します ～A I時代の安全性を踏切に～

山陽電気鉄道株式会社（本社：神戸市長田区、代表取締役社長：上門一裕、以下「山陽電車」）では、様々な安全対策に取り組んでいるところですが、踏切においては依然、高齢者の渡り遅れなど、人が内側に取り残される事象が発生しています。その対策の一端として、2020年8月より踏切に滞留した「人」を踏切映像からA Iを用いて検出するシステムを開発するため、株式会社オプテージ（大阪府中央区、代表取締役社長：名部正彦）、K4 Digital 株式会社（大阪府北区、代表取締役社長：北原寛千）、株式会社山電情報センター（神戸市長田区、代表取締役社長：岩野 誠）とともに実証実験を行いました。

その結果、踏切の安全性向上が期待できるとの結果を得たことから、2021年7月より本システムを国内で初導入※します。

※A I画像解析による人検知と信号保安装置を連動させたシステムの実運用
〈参考〉2020年8月11日発表「A I画像解析技術を活用した踏切横断における安全性強化に向けた実証実験開始について」

◆システムの概要



①画像解析による「人」の検知

従来の踏切障害物検知装置に加え、踏切映像からA Iにより踏切内に取り残された「人」を検知します。ただし、画像解析による検知システムであるため性能には限界があり、天候等の影響で鮮明な画像が得られない時など正確に検知できない場合もありますが、その場合も自動車等の障害物については従来の踏切障害物検知装置で検知することができます。

②特殊信号発光機（停止信号）との連動

A Iが異常を検知した際には、特殊信号発光機（停止信号）と連動させて接近する列車の運転士に即時発報し、緊急停止を促します。

③運転指令室への連携

ネットワークを經由して運転指令室に異常の発生を通知すると同時に、P C画面から現地の踏切映像（監視動画、異常発報時・異常が解除となった時の静止画）を確認することができます。

山陽電車では、これからも地域社会とともに持続的な成長ができるよう新技術導入等に積極的に取り組み、さらに安全・安心してご利用いただけるよう努めてまいります。

以上

本件に関するお問合せは

山陽電気鉄道株式会社 技術部 電気システム課 TEL 078-940-5201